

各 位

会 社 名 株式会社ダスキン
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 山村 輝治
 (コード番号：4665 東証プライム市場)
 問合せ先 執行役員 経営企画部長 江村 敬一
 電話 06-6821-5071

「中期経営方針2022」数値目標及び株主還元方針に関するお知らせ

当社は、2022年2月9日に概要を公表した「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)における各年度ごとの数値目標を策定いたしましたのでお知らせいたします。また、本日2022年5月13日開催の取締役会において、2023年3月期以降の配当方針を変更することを決議しました。配当方針を含む当面の株主還元方針についても、併せてお知らせいたします。

記

1. 「中期経営方針2022」の数値目標(連結)について

長期戦略「ONE DUSKIN」の第3フェーズ3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、先行きが不透明な中スタートを切りましたが、今後は国内経済活動の活性化が想定され、また、衛生管理ニーズやテイクアウト需要が高まる中で、売上高については概ね年率4%程度の漸増計画としております。

他方、利益面につきましては、デジタル技術の活用等による効率化を進める計画ですが、足下では急速な円安進展、原材料価格の高騰等、厳しい経営環境も続いております。また、サステナブルな洗浄・物流体制の構築を目指して、この期間に戦略的投資として最重要と位置付けているRFID(電子タグ)の導入と工場のスマートファクトリー化を進めることを計画しており、2023年3月期、2024年3月期は一時的な減益、2025年3月期には改善する計画であります。

(単位：百万円)

		2022年 3月期実績 (基準期)	2023年3月期計画		2024年3月期計画		2025年3月期計画		基準期 からの 成長率
				前期比		前期比		前期比	
訪販グループ	売上高	107,128	111,800	+4.4%	117,000	+4.7%	118,900	+1.6%	+11.0%
	営業利益	10,539	8,300	△21.3%	4,300	△47.6%	11,000	+155.8%	+4.4%
フードグループ	売上高	43,818	46,500	+6.1%	49,400	+6.2%	51,500	+4.3%	+17.5%
	営業利益	3,619	3,900	+7.7%	4,200	+7.7%	4,500	+7.1%	+24.3%
その他	売上高	15,414	14,800	△4.0%	15,500	+4.7%	15,800	+1.9%	+2.5%
	営業利益	873	500	△42.7%	800	+60.0%	1,000	+25.0%	+14.5%
セグメント間 取引消去及び 全社費用	売上高	△3,150	△3,100	—	△3,200	—	△3,200	—	—
	営業利益	△5,133	△4,900	—	△4,800	—	△4,500	—	—
連結	売上高	163,210	170,000	+4.2%	178,700	+5.1%	183,000	+2.4%	+12.1%
	営業利益	9,899	7,800	△21.2%	4,500	△42.3%	12,000	+166.7%	+21.2%
連結経常利益		12,215	9,600	△21.4%	6,500	△32.3%	14,000	+115.4%	+14.6%
親会社株主に帰属する当期純利益		8,132	6,600	△18.8%	4,400	△33.3%	10,000	+127.3%	+23.0%

(1) 2023年3月期

訪販グループは、注力する衛生関連商品の提供強化、ケアサービスの拠点数増等により、前期対比4.4%の増収、利益面につきましては、RFIDの取り付け開始で10億円の売上原価増を織り込み、減益となる見込みです。

フードグループは、主力のミスタードーナツにおける“misdo meets”を中心とした商品戦略等、既存店の売上増に加え、新規出店による稼働店舗数増加を織り込み、前期対比6.1%の増収を計画しております。利益面につきましては、一部商品の価格改定を本年3月1日に実施したところではありますが、足下では更なる原材料高や円安が進んでおり、その影響も織り込み、増益は小幅に留まる計画としております。

その他は、上海におけるロックダウン長期化の影響や前期に受注した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連売上の減少等を織り込み、減収減益となる計画です。

(2) 2024年3月期

訪販グループは、衛生意識の定着やケアサービスにおける出店増により、前期対比4.7%の増収を計画する一方、RFIDの2025年3月期の運用開始に向けて、流通する約3,100万枚のレンタル品(マット・モップ)への取り付けによる約43億円の売上原価増を織り込み、大幅な減益となる計画としております。

フードグループについては、ミスタードーナツにおけるお客様の利便性向上への取り組み拡充や新規店舗出店等により、前期対比6.2%の増収を見込んでおります。利益面については、外部環境の想定が困難であり、2023年3月期と同様の影響を織り込んだ増益計画としております。

(3) 2025年3月期

訪販グループは、前期対比1.6%の増収を見込む一方、利益面においては、RFID運用開始に伴う効率化及び原価の減少(約14億円)により増益となる見込みです。

フードグループにつきましては、稼働店舗数増により、前期対比4.3%の増収、それに伴う増益を計画しております。

2. 株主還元方針について

(1) 配当方針の変更

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、財務健全性を維持しつつ業績に応じた適切な利益配分を行うことを基本方針とし、且つ安定的な現金配当を継続してまいりました。

他方で当社は、「中期経営方針2022」において、2025年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益100億円、自己資本純利益率(ROE)6%以上を目標に掲げて、資本効率の向上に取り組むこととしております。

当面の株主の皆様への還元につきましては、これまでの基本的な考え方を堅持した上で、収益及び資本効率の向上に取り組む姿勢を明確に示すため、基本となる配当性向を50%から60%に変更し、更に下限指標として自己資本配当率(DOE)を導入することとしたものであります。なお新配当方針は、2023年3月期中間配当より適用することとし、2022年3月期期末配当は、変更前の配当方針に基づき実施いたします。

<配当方針の変更内容>

変更前	変更後
当社は株主に対する利益還元を経営の重要課題と位置付け、持続的な成長と企業価値向上のための投資や様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランスを考慮した上で、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。連結配当性向50%を目途に毎期の配当額を決定することとし、且つ安定的な現金配当を継続して行ってまいります。今後とも長期的に株主の皆様のご期待に沿う株主還元政策を進めてまいります。	当社は株主に対する利益還元を経営の重要課題と位置付け、持続的な成長と企業価値向上のための投資や様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランスを考慮した上で、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針とし、毎期の配当額は、連結配当性向60%または自己資本配当率(DOE)2.5%のいずれか高い額といたします。今後とも長期的に株主の皆様のご期待に沿う株主還元政策を進めてまいります。

(2) 当面の株主還元方針について

「中期経営方針2022」の3年間においては、成長投資を最優先としつつも、上記方針に基づく配当に加えて、機動的で弾力的な自己株式の取得を積極的に実施していく方針であります。直近2期については自己株式取得の実績はありませんが、長期戦略「ONE DUSKIN」の開始期である2016年3月期からこれまでに実施した実績に鑑み、3年間累計の総還元性向100%以上を目標に株主の皆様へ利益還元する方針であります。

以上

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。

株式会社ダスキン 広報部 電話 06-6821-5006